スペシャル・ゲスト

この先
連れてっても
もうおまえに
水もあげられ
ないって
んぅ…
もう
ずっとむこうで
みんな死んで
しまったんだものね
ぼくのような
かたちに生まれた
こどもは
みんな
もうずっとむこうで
おかあさんも
ミラ叔母さん
いままで
ありがとう
「運んできた
子供」は
すべてここへ
セツは？

セツは
大丈夫だよ

水も食べものも
みんなであげる

昔のままの
ヒトのかたちを
継いでるかも
しれない

いちばん
ちいさな
子だから
ね

セツ

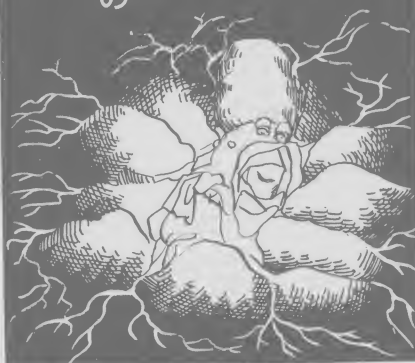
。

行こう

さようなら

ぼくの傍を
それから

たくさんの
ヒトが
通りすぎ

枯れた土深く
染み込んだ
死んだものたちの
命の中に、
ぼくも
ゆっくりと
降りてゆく
それを連れて
生かして何の
意味があるの？
セムヌは
失敗なんだよ
壊れた滅ぶだけの
遺伝子なんだ
何も産まない
何も育てない
子なんだよ
何も受け継がない
何のつながりもない
おかあさん
ぼくは
祈るよ

ぼくの心が
消えるまで
祈るよ

おかあさんに

つながる祈りを

「どうか」

「どうか
セツが
生き」

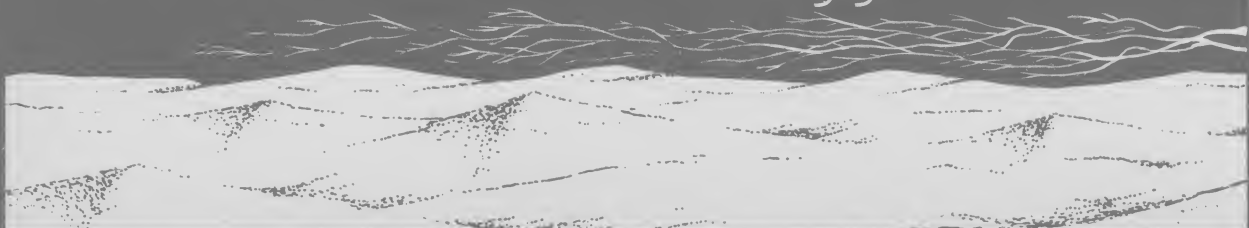
「生きて
かたちを
受け継いだ
子を産み」

「人々に
つながって
いきますように」

火の風が吹きぬけ
夜が凍り

陽は強まり
また弱まり

何度もそれを
くりかえし

ぼくは

ぼくが
在るのか
無いのかも
わからない
。
でもぼくは
祈っているよ
おかあさん
ずっと…
カサ…
ク…ク…
カ…
チチ…
…サ…
何かが
ぼくを
食べて
いる?
ぼくは
まだ
生きて
いるのか?
セツ?
だめよ

この「道の木」には
「心」が残っているわ
「きく」んだよ
「だめだ」なんて
言うもんか
言っても
食べるよう!!
「きく」のよ
さあ
「たべても
いいです
か?」
うん
チチチチ…
クッ…ケッ…
セツ…
「セツ」
だって
「セツ」じゃ
ないよ
古き大きな
「道の木」よ
セツはこの子の
母の母です

古き木よ
見たのですね
セツがこの道を
往くのを
私の祖母の
ミラとともに
「すべて」
「すべて
『そうである』ことに
私は意味を
与えよう」
「おまえが
『そうである』ことにも」
「そうであれ」
「在るものも
死せるものも」
「そして
つながれ」
すべて
命の
うちにあり
命に向い
「祈れ」と
呼ばれる
ものが
そう応えた
LINK.／終

INTRODUCTION
1998